

検査研究演習 (Graduate Seminar of Laboratory Research Exercise)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
柴田、高崎、井上、伊藤、森、千原、星野、山口、小菅、澤田、鈴木、大島、榎本、藤田	1年次前期	必修	2	48	演習	あり	巻末掲載	可
授業概要（内容と進め方）及び課題に対するフィードバック方法	検査研究演習では、学部で履修した知識、実習で修得した技術を基に、新たな臨床検査法につながる検査研究の遂行を目標に演習する。最近の研究・技術の進歩により多様化し複雑化した考え方や方法論を学修する。課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査学の高度な知識と研究手法を体得し、臨床検査の質向上に向けた研究を遂行することができる。」及び②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。							
到達目標（履修者が到達すべき目標）	1. 臨床で求められる新たな臨床検査法を想定し、説明できる。 2. 各種の検査法の新知見をできるだけ多く認識し、説明できる。 3. 新たな検査法の応用方法を理解し、説明できる。							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく/シラバスに記載された内容を調べ、内容を概説できるようにしておくこと（各30分） 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/毎回の講義の復習を十分行うこと。（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回	検査研究演習の概要					高崎昭彦	
	第2回	産業衛生学の概論と健康問題の解決法1					柴田英治	
	第3回	産業衛生学の概論と健康問題の解決法2					柴田英治	
	第4回	疾患プロテオミクスの概要と実際					高崎昭彦	
	第5回	炎症性サイトカイン測定の意味と対象疾患について1					森 啓至	
	第6回	炎症性サイトカイン測定の意味と対象疾患について2					森 啓至	
	第7回	がん悪液質の病態に関する検査法と栄養管理法1					千原 猛	
	第8回	がん悪液質の病態に関する検査法と栄養管理法2					千原 猛	
	第9回	免疫学の概要1					星野真理	
	第10回	免疫学の概要2					星野真理	
	第11回	プロバイオティクスと生活習慣病の予防1					井上 孝	
	第12回	プロバイオティクスと生活習慣病の予防2					井上 孝	
	第13回	侵襲的生理検査（カテーテル検査、内視鏡検査など）について					伊藤康宏	
	第14回	画像検査などについて					伊藤康宏	
	第15回	先端医療における遺伝子検査の役割と方法について1					山口央輝	
	第16回	先端医療における遺伝子検査の役割と方法について2					山口央輝	
	第17回	最新の形態学的検査法について1					澤田浩秀	
	第18回	最新の形態学的検査法について2					澤田浩秀	
	第19回	臨床検査と食理学、健康食品1					小菅優子	
	第20回	臨床検査と食理学、健康食品2					小菅優子	
	第21回	輸血医療の問題点と輸血検査の課題					星野真理	
	第22回	血液学の最近の動向：がん関連血栓症を検査血液学から捉える					鈴木真紀子	
	第23回	寄生虫のゲノムDNAによる同定法や新規診断法					大島 茂	
	第24回	電気生理学的手法による中枢および末梢神経系検査法の解説					榎本喜彦	
評価方法 評価基準	レポートで評価する（100%）							
教科書	特に定めない。			参考書等		各担当教員から資料を配布する。		
学生へのメッセージ	臨床検査技師として必要な知識を深め、臨床現場で役立てること及び、研究課題のヒントとなる可能性もあり、特別研究に役立てていただきたい。							